

ODA

発行 社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会
 編集 沖縄県障害者社会参加推進センター
 〒901-0516 沖縄県島尻郡八重瀬町字仲座 1038 番地 1
 TEL(098)851-3455 FAX(098)851-3855
 ホームページアドレス <https://www.okisin.jp>
 Eメールアドレス okisinky@blue.ocn.ne.jp
 頒価一部 100円（会費に含まれています）

沖縄県障害者社会参加推進センターだより 第64号

新年のごあいさつ

沖縄県障害者社会参加推進協議会 会長 山城充正

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。
 関係者の皆様には、日頃より沖縄県障害者社会参加推進センターの事業推進に、多大なるご支援とご協力を賜り心から感謝申し上げます。



さて、新型コロナウイルスが確認されてから、間もなく3年が経過しますが、昨年は、感染防止対策を講じながら徐々に活動することができました。コロナとの付き合いは今後も続いていくものと思いますが、引き続き感染防止対策を怠らず、諸事業に取り組んでいく所存でございます。

さて、沖縄県においては令和4年4月より「第5次沖縄県障害者基本計画」がスタートされ、同計画に基づき、障害のある方々が地域社会の一員として、生き生きと暮らすことができるよう諸施策の充実、組織強化・育成を図り、共生社会の実現に向けた活動に取り組まれております。

このような中、当協会においても、障害者の社会参加を推進するため、市町村障害者団体・関係機関等と連携のもと、諸施策の充実、組織強化・育成を図り、共生社会の実現に向けた活動に取り組んでまいります。

結びに、本年も皆様にとりまして幸多き年になりますようご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



第62回沖縄県身体障害者福祉展

令和5年2月1日（水）～5日（日）、中城村護佐丸歴史資料図書館 3階企画展示室を会場に、標記展示会を開催しました。なお、中城村での開催は62年の歴史の中で初となります。昨年はオンライン開催のみでしたが、今年は会場展示を行なうことができ、全34団体/241作品を綺麗にレイアウトし、来場者に観ていただくことができました。



初日には、吉の浦会館でオープニングセレモニー（表彰式典）を行ない、受賞された皆さんに賞状が贈られました。その中でも開催地賞【中城賞】には浜田京介中城村長から副賞も手渡されました。



今年度は子どもたちの作品が多く出展され、そのパワーあふれる作品が展示会場をにぎやかに彩りました。また、初の試みとして会場の一部にボードゲームの体験コーナーを設置しました。頭を使うゲームや感覚的にできるゲーム、視覚障害者のプレーを想定して作られたゲーム等を配置し、来場者に挑戦してもらいました。



←バーチャル展公開中！

受賞者の紹介はこちら→
 (Youtube 動画)



沖縄県手をつなぐ育成会

令和4年度障害者虐待防止・権利擁護研修のご報告

沖縄県手をつなぐ育成会事業である「障害者虐待防止・権利擁護研修」を、令和5年2月14日（火）に糸満市親の会で、2月15日（水）は県総合福祉センターで、田中理事長が講師として行いました。



この研修の趣旨は、障がいのある人への虐待防止や差別禁止を目的とした制度の認識、さらには家庭や職場など現在自分自身の置かれている環境を見つめ直し、障がいのある家族や事業所利用者への処遇を再認識することを目的としたものです。

昨年9月、国連の障害者権利委員会より障害者差別解消法の改正や障害者雇用促進法における合理的配慮の義務化、障害者文化芸術分野の進行などに対する評価はありましたが、障がいのある人の特定生活施設入所（グループホーム含む）への義務付け防止やインクルーシブ教育を受ける権利の認識、精神科病院における無期限の入院防止など、日本の障害者権利擁護制度への強い勧告・要請もあり、それらの情報提供の機会として今研修には大きな意義を感じています。

国連権利委員会に対しては、2028年までに今回の勧告実施に関する報告を求められています。

日本における今後の福祉施策の変革には注視していかなければなりません。



沖縄県精神保健福祉会

沖福連の就労支援事業所や地域活動支援センターでは、昨年秋頃からバザーや展示販売イベントなどへの出店参加で大忙しの日が続いています。

【令和4年11月18日】
南部地区地活・合同福祉バザー（イオンタウン南城大里）

【令和4年11月19日、20日】
ちむぐくるゆいフェスタ（シャボン玉せっけん・くる糸満）

【令和4年12月5日～9日（障がい者週間）】
南風原町福祉事業所合同販売会（丸大南風原店）

【令和5年2月4日、5日】
ルンルンはえばるフェスタ（イオン南風原店）

【令和5年2月17日】
うるま市あおぞらマーケット（うるま市役所）

【令和5年3月4日】
13時だよ！全員集合 in いしみね救護園

コロナ禍で活動が縮小していた数年間の反動でしょうか、障がい福祉界隈でも対面型のイベントが盛りだくさんになってきました。

お馴染みの「てるしのパン」に加えて、紅型雑貨やEMせっけん、ピパーチの粉末などいろいろ取り揃えております。もし機会がありましたら、ぜひ覗いてみてください！



沖縄県視覚障害者福祉協会

同行援護従業者養成研修（一般課程）

視覚障害により、移動に著しい困難を有する障害者等にたいして外出時に同行し移動に必要な情報の提供や、移動の援護等、外出時に必要な援助に関する知識及び移動支援技術を習得することを目的に同行援護従業者養成研修（一般課程）を令和5年2月27日（月）から3月1日（水）の日程で開催しました。

視覚障害の理解を促す障害・疾病の理解や同行援護従業者の業務・職業倫理、当該障害者の心理、情報支援と情報提供、代読代筆に関する内容の講義等を行い、視覚障害には移動と情報取得の障害があることを理解していただきました。

また、演習ではアイマスク体験を行いながら基本姿勢から歩き出し、椅子への誘導やささまざまな形状の段差・階段の上り下り、狭所の通過、食事体験。実際に屋外に出ながら歩車道の区別のない道路の歩行、エスカレーター、公共交通機関（路線バス）の実体験等を通して視覚障害者を誘導する際の基本技能を学んでいただきました。



受講者14名が全日程を怪我無く修了することができました。今後修了された皆様が、同行援護従業者として視覚障害者が安全・安心して快適な移動ができるよう支援されることを願っています。

沖縄県聴覚障害者協会

第39回耳の日記念大会

令和5年3月5日（日）、沖縄県総合福祉センター ゆいホールを会場に第39回耳の日記念大会を開催しました。

【式典】

式典には主催者2名と来賓4名の臨席を始め、多くの一般参加者の来場があり、関係者一同たいへん喜ばしい限りでした。大会の開会の際には参加者全員で両手をひらひらさせるろう者の拍手につつまれる中、予定通り開演、来賓による手話を使用した自己紹介とあいさつなどが行われるなか、無事に式典は終了しました。

【講演会】

（一財）全日本ろうあ連盟スポーツ委員長の太田陽介氏（ろう者）を講師に招き、「ろう者のスポーツ史と2025東京デフリンピック競技大会開催にあたって」と題し「デフリンピックのエピソード」を含め、昨年ブラジルで開催されたデフリンピックと今回は、東京で開催することが決定されたデフリンピックの理解と知名度を広めようというテーマでのご講演をいただきました。デフリンピックは、パラリンピックと比べると理解や知名度が高くありません。その理由や原因を含めながらろう者のスポーツ史を話されました。参加者におきましては、ろう者のスポーツの歴史のことが知ることができ、またデフリンピックの重要性を理解いただけたと思います。



【アトラクション】

県内各地のイベントに出場し、聴覚障害者に対する認識を広めている「琉球響太鼓」が出演、太鼓の振動を体で感じとって一生懸命バチを叩きながらパフォーマンスをする姿に参加者はとても感動していました。

今後、ろう者の文化、啓蒙など、もっと理解を深めていけるように、より多くの参加を呼びかけて、年齢層等に関係なく誰でも楽しめる耳の日記念大会にしていきたいと思っています。

障がい者ピアサポート研修

令和5年2月25日・26日にシャボン玉石けんくくる系満で障がい者ピアサポート研修(基礎研修)を開催しました。

障害福祉サービス事業所等でピアサポートに従事する方、事業所等でピアサポーターと協働する管理者等を対象としており、32名が受講(離島からリモートでの参加も含む)しました。

県内の障害当事者団体、障害者を支援している団体の方を講師

に、講義や演習を行いました。

講義は、ピアサポートの理解やコミュニケーションの基本、障害福祉サービスの基礎と実際、ピアサポートの専門性という内容でした。また、ピアサポートの実際・実例は、障害領域ごと



(身体・知的・精神・難病・発達・高次脳)での支援活動の一端に触れる貴重な時間となりました。障害領域ごとに、歴史も違い、取り組み方も違ってきます。同じような背景を持つ仲間として支えるという点は共通しますが、色々な支援のかたちがあります。

演習は、6グループに分けて行いました。テーマに沿って、自分の考えを伝えたり、他のメンバーの考えを聞くことで、講義で学んだことを深めるとともに、自分自身を見つめる機会にもなりました。

2日間にわたる研修でしたが、全員が無事に修了しました。事業所等におけるピアサポート活動の取り組みは始まったばかりです。取り組んでいる事業所等もピアサポーターも多くはありません。しっかりと根づくためにも継続的な研修が必要です。

本年度は基礎研修を開催いたしましたが、次年度は専門研修の開催も予定されています。ピアサポート活動の充実により、支援の質が向上し、障害当事者がピアサポーターとして働く場が広がるよう、沖縄県や関係機関と連携を図っていきます。



沖縄県友声会

音声機能障害者発声訓練及び個人指導・発声相談について

喉頭がん、咽頭がん、舌がん、食道がん、甲状腺がん等による喉頭全摘者で音声機能障がいの方を対象に「発声訓練・個人指導等」を行っています。

※令和5年1月より開催場所が下記の場所に変更となっています。

開催日時	開催場所
毎月第1～4土曜日 (14:00～16:00)	サン・アビリティーズうらそえ (浦添市宮城4-11-1)



【問い合わせ先】

・社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会
TEL: 098-851-3455 FAX: 098-851-3855
携帯: 090-8294-2290
E-mail: taiki10@okisin.jp

・沖縄県友声会 会長: 田名 勉



障害者110番

～障がい者の人権を守り、生活を支援します～

◆相談日: 月曜日～金曜日 9:00～17:00

【相談内容】

人権問題・生活支援・医療福祉・その他障がい者自身または家族、友人や知人で悩んでいる方、困っている方などの相談。あなたの近所の方で悩んでいる、困っている方などの情報をお気軽にご相談ください。



【問い合わせ先・連絡先】

◆電話(FAX 兼用): 098-851-3910
◆メールアドレス: jimukyok14@okisin.jp
〒901-0516 沖縄県島尻郡八重瀬町字仲座 1038-1
(沖縄県障害者社会参加推進センター 相談室)

おきしんきょう通信

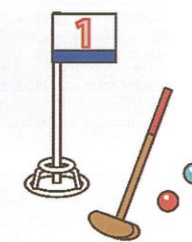
— 沖縄県身体障害者福祉協会 —

経営理念

一、利用者本位 一、社会貢献 一、責任と実行

第18回 沖縄県身体障害者グラウンド・ゴルフ大会

令和5年1月29日(日)、沖縄県総合運動公園レクドームを会場に第18回沖縄県身体障害者グラウンド・ゴルフ大会を3年ぶりに開催しました。午前・午後の部に分けての開催となりましたが、全16団体・20チーム98名の選手が競技に挑みました。団体及び個人の結果は以下のとおりです。



午前の部 団体	午前の部 個人
1位 沖縄市障がい者協会	1位 栄野比ミツ子 (沖縄市障がい者福祉協会)
2位 沖縄市障がい者協会 (聴覚部)	2位 伊佐盛光 (中城村身体障害者福祉協会)
3位 中城村身体障害者 福祉協会	3位 宮里正則 (沖縄市障がい者福祉協会 聴覚部)



午後の部 団体	午後の部 個人
1位 沖縄県聴覚障害者協会 高齢部Bチーム	1位 高吉昌弘 (沖縄県聴覚障害者協会高齢部Aチーム)
2位 沖縄県聴覚障害者協会 高齢部Aチーム	2位 粟国モリ子 (沖縄県聴覚障害者協会高齢部Bチーム)
3位 南城市身体障がい者 福祉協会Bチーム	3位 平良司 (沖縄県聴覚障害者協会高齢部Bチーム)

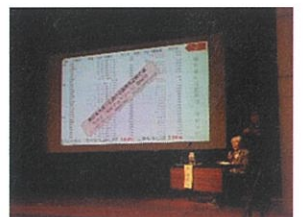
午前・午後の部を合わせた成績の総合1位のチームとなった【沖縄県聴覚障害者協会 高齢部Bチーム】は、宮崎県で開催される九州大会へ派遣となります。九州大会での活躍を期待しています。

令和4年度 障がい者福祉講演会

令和5年3月7日に沖縄市民会館中ホールで標記講演会を開催しました。

今回のテーマは「障がい者の防災について」で、年度末の忙しい時期の開催でしたが、約80名の参加があり、皆さんの防災への関心の高さがうかがえました。

第1部は熊本学園大学の東俊裕氏から「災害と障害」と題し、ご講演いただきました。冒頭、東日本大震災における障害者の死亡率が、全体の死亡率の2倍であったとデータが示され、「災害は誰にも平等に襲いかかる。しかし被害は脆弱な存在により重くのしかかる」というショッキングな言葉に、危機意識を高め、我が事としてその後の話を聞かれた障害当事者も多かったのではないのでしょうか。西日本豪雨や熊本地震といったこれまでの各地の大規模災害から見えた課題を学びました。



第2部では防災サポート沖縄の長堂政美氏から「地域防災の取り組みについて」と題し、沖縄における防災の取り組みについてご講演いただきました。ここ沖縄でも大地震が起こる可能性があること、これから起こる災害に対し、今、何ができるのかを事例を交えながら話されました。また、沖縄市障がい者福祉協会との実践の報告もあり、他市町村身協の取組にも参考になったのではないのでしょうか。



「天災は忘れた頃にやってくる」と言いますが、講演を聞いた後の思いを忘れずに、防災を意識していきたいものです。



地域活動支援

～活動報告～



当法人の経営理念のひとつに「社会貢献」があります。社会や地域に役立つ活動を推進するため、地域の身障協をはじめとする様々な団体が実施する事業運営の協力を行なっています。

近隣小学校等での福祉教育は、地域の障害者との交流を通じて障害理解を深め共生社会の実現に寄与することを目的に実施しています。

また、他の団体からイベント開催に向けた助言や当日の運営補助、用具貸出の依頼等があり、「社会貢献」の実現に向けた活動を進めています。

今後も実施していきますので「活動したいけど、どうしよう・・・」とお悩みの方は一度沖身協までお問い合わせください！

※令和4年度の活動実績(抜粋)は以下のとおりとなります。

事業名	活動地・主催団体
福祉教育：車いす体験	八重瀬町内小学校
福祉教育：スポーツ交流 (ボッチャ、モルック)	南城市内小学校、糸満市内小学校、沖縄市内放課後等デイサービス
みんなのしくボッチャ大会	日本青年会議所沖縄地区協議会
モルックふれあい大会	恩納村社協
アイルカップボッチャ交流会	八重瀬町社協
うるまボッチャチャンピオンシップ2023	うるま市教育委員会
中城村生涯スポーツ体験会	中城村スポーツ推進委員
清掃活動	八重瀬町内
東風平味噌汁会	八重瀬町社協



わったーしんかぬちゃー

★地域身障協や関係団体のご紹介★

今回は、最近の県事業で存在感を出していて、これからユリの季節を迎える伊江村の紹介です！

【伊江村身体障害者協会】

(東江 亮 会長)

【会員数】18名

【活動紹介】

- ・村外レク活動
- ・伊江村福祉団体バーベキュー
- ・望年会 & ボッチャ大会
- ・各種スポーツ大会等への参加



【一言コメント】

・昨年6月に伊江村役場福祉課から伊江村社協へ事務局引継ぎとなり、1からのスタートとなった今年度は、身体障害者スポーツ大会へ初の宿泊での参加や、グラウンド・ゴルフ大会へも初参加となり活動への意欲が高まっていると感じています。また、3月はイオンモール沖縄ライカムで映画鑑賞会を実施しました。

伊江村には3つの障がい者施設があり、会員同士の交流や本会の活動を通してイキイキと活動してもらえよう心がけ取組んでいきます。

【問合せ】

住所：伊江村字川平364-1(村社協内)

TEL：0980-49-5104

FAX：0980-49-3941

MAIL：iesyakyo@iesyakyo.org



※その他の市町村身体障害者協会へ連絡を取りたい！と思う方は、沖縄県身体障害者福祉協会へお気軽にお問い合わせください！お待ちしております！

TEL：098-851-3455 FAX：098-851-3855

MAIL：okisinky@blue.ocn.ne.jp